

| | |
|--------|----------------------------------|
| 学校教育目標 | 自立・協働・創造 ～静まるときは整然と はじけるときは思い切り～ |
| ミッション | 小中連携の推進による自律性・協働性の育成 |
| | 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成 |

| 評価項目 | 評価内容 | 達成率 | | | | 評価 | 結果と課題の説明 | 学校長コメント | | 評価 | |
|-------|---|---|------|-----|-----|------|----------|---|-----|---|---|
| | | A | B | C | D | | | コメント | 改善案 | | |
| 学力の向上 | <p>主体的な学びの実現</p> <p>①個別最適な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆向き単元構想図・指導案の作成 ・授業の導入の工夫 ・子どもたちの声を傾けながらの授業改善 <p>②協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に基づく学習集団の育成 ・効果的な協働学習の設定 <p>③「いきかたナビゲーション（『いきナビ』）」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・ログ「学びの地図」の活用 ・「なりたい自分」に近づくための理想とするロールモデルとの出会いの設定（キャリア講演会） | <p>①生徒アンケート「授業では、受け身にならず、自立的に自分から進んで学習に取り組んでいます」における肯定的評価</p> <p>②生徒アンケート「授業では、友達と話し合う協働して、自分の考えを深めたり、広げたりしています」における肯定的評価</p> <p>④個別ベースと協働ベースを使い分けた単元内自由進度学習の実施</p> | 75% | 79% | 78% | 100% | A | <p>○「自由進度学習」の全員実施と「自由進度学習」の考え方を活かした日々の授業展開</p> <p>今年度は、授業者全員による自由進度学習を実施し、学校全体で学校教育目標の「自立」に焦点を当てて取組を進めることができた。生徒がそれぞれの課題に応じて、様々な選択肢や実験・体験ができるコーナーをもとに、自己決定し自力解決を目指すことで「個別最適な学び」の充実を図った。教師が作成した学習環境である「定礎」をもとに、生徒が課題を乗り越える経験を積み重ねることで、生徒は着実に「自立した学習者」へ歩みを進めた。一方で、アンケートによる達成度は大幅な変化が見られなかった。今後は、より一層、「自由進度学習」の考え方を活かした日々の授業展開をもとに、カリキュラム全体で個別最適な学びに迫っているよう取り組んでいきたい。</p> | | | <p>○今年度は、単元内自由進度学習に授業者全員が挑戦し、主体的な学びの実現を目指している。学力結果や得点群別集計結果から、学力面について全体で見ると成果が見られた一方で、生徒個別に見ていくと、得点率が30%未満の生徒の割合には大きな変化が見られなかった。個別最適な学びを推進していく上で、再度その生徒に目を向け、丁寧な実態把握と手立てについて再検討していく必要があると感じた。授業づくりにおいては、授業者が一人で授業づくりに取り組むのではなく、授業者を中心としてチームを編成し、チームで授業づくりを進めることができるよう取り組んでいる。その中で、ベテランや若手がそれぞれの持ち味や強みを発揮することができるよう組織的に研究を進めることができている。また、単元内自由進度学習のみに留まるのではなく、日々の授業においても「選択肢」と「自己決定」を取り入れた授業を展開し、生徒が主体的に授業と向き合い、「自分で」授業を進めているという実感をもてるようにしていく。そして、「なぜ自由進度学習に取り組むのか」「なぜ学ぶのか」といった問いに何度も向き合いながら、その本質や目的に立ち返りながら取組を進めていくことで、将来に活きる資質・能力の育成につなげていきたい。</p> |
| | | <p>①2学力調査（1・2学年は標準学力調査 3学年は実力テスト）の全国差4月からの変動</p> <p>4月からの学力平均値</p> <p>5教科平均値</p> <p>3年生120%※1、2年生は2月実施と比較</p> | 120% | | | | A | <p>○基礎学力の定着の課題</p> <p>学力診断問題（3年）において全国の平均に対して第1回から第5回の変動が国語が+3.2、数学が+4.7、英語が+1.2、社会が+4.0、理科が-1.6という結果になった。3年生は、これまでの授業改善や基礎学力の定着を目指した家庭学習の実施、それぞれの進路実現に向けた取組や家庭学習の充実により、学力が定着してきていることが分かる。標準学力調査（1年）において全国の平均に対して4月実施から1月実施の変動は、国語が-0.4、数学が+2.5、英語が+5.4、社会が+0.5、理科が+2.9であった。授業のルーティン化により年間を通して基礎学力の定着に努め、成果を得ることができた。標準学力調査（2年）においては、国語が+4.2、数学が+0.1、英語が-0.5、社会が+7.8、理科が+1.2であった。預習教材の活用による英語を高める工夫や可視化、重要語句の定期的な確認により成果が見られた。一方で、得点率が30%未満の生徒数については、大きな変動が見られなかったことが課題である。</p> | | <p>○今年度も、単元内自由進度学習に授業者全員が挑戦し、主体的な学びの実現を目指している。学力結果や得点群別集計結果から、学力面について全体で見ると成果が見られた一方で、生徒個別に見ていくと、得点率が30%未満の生徒の割合には大きな変化が見られなかった。個別最適な学びを推進していく上で、再度その生徒に目を向け、丁寧な実態把握と手立てについて再検討していく必要があると感じた。授業づくりにおいては、授業者が一人で授業づくりに取り組むのではなく、授業者を中心としてチームを編成し、チームで授業づくりを進めることができるよう取り組んでいる。その中で、ベテランや若手がそれぞれの持ち味や強みを発揮することができるよう組織的に研究を進めることができている。また、単元内自由進度学習のみに留まるのではなく、日々の授業においても「選択肢」と「自己決定」を取り入れた授業を展開し、生徒が主体的に授業と向き合い、「自分で」授業を進めているという実感をもてるようにしていく。そして、「なぜ自由進度学習に取り組むのか」「なぜ学ぶのか」といった問いに何度も向き合いながら、その本質や目的に立ち返りながら取組を進めていくことで、将来に活きる資質・能力の育成につなげていきたい。</p> | |
| | | <p>③生徒アンケート「自分の夢や目標、なりたい自分に近づくために自ら進んで努力することができている」における肯定的評価</p> | 80% | 74% | 69% | 93% | B | <p>○「学びの地図」の作成といきかたナビゲーションの実施</p> <p>特別活動を軸として、全校学習、「学びの地図」による目標設定、そして「いきかたナビゲーション」を年間を通して計画的・系統的に実施することができた。生徒アンケートでは、約69%の生徒が「なりたい自分」に近づくために努力できていると肯定的に回答している。上半期から5%減少してしまった要因として、3年生は受験を控えている時期であったこと、1・2年生は学校行事が終ってしまいうる意欲が薄くなってしまったことが考えられる。生徒の意欲が現象していることに目を向け、継続的にキャリアカウンセリング等で、それぞれの思いに寄り添いながら「なりたい自分」や小さな目標設定ができるよう支援していく必要がある。</p> | | <p>○今年度も、単元内自由進度学習に授業者全員が挑戦し、主体的な学びの実現を目指している。学力結果や得点群別集計結果から、学力面について全体で見ると成果が見られた一方で、生徒個別に見ていくと、得点率が30%未満の生徒の割合には大きな変化が見られなかった。個別最適な学びを推進していく上で、再度その生徒に目を向け、丁寧な実態把握と手立てについて再検討していく必要があると感じた。授業づくりにおいては、授業者が一人で授業づくりに取り組むのではなく、授業者を中心としてチームを編成し、チームで授業づくりを進めることができるよう取り組んでいる。その中で、ベテランや若手がそれぞれの持ち味や強みを発揮することができるよう組織的に研究を進めることができている。また、単元内自由進度学習のみに留まるのではなく、日々の授業においても「選択肢」と「自己決定」を取り入れた授業を展開し、生徒が主体的に授業と向き合い、「自分で」授業を進めているという実感をもてるようにしていく。そして、「なぜ自由進度学習に取り組むのか」「なぜ学ぶのか」といった問いに何度も向き合いながら、その本質や目的に立ち返りながら取組を進めていくことで、将来に活きる資質・能力の育成につなげていきたい。</p> | |

| | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--|-----|-----|-----|------|---|---|--|---|
| 静まるときは整然と はじけるときは思い切り | <p>生徒指導（支援）の充実</p> <p>①生徒にとっての安心・安全な居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が溢れる学校 ・お互いを支え合う集団づくりによる学級経営の充実 「学級力向上プロジェクト」による学級のキャリア 「モデルとしての教師」「肯定的評価・フィードバック」「自己肯定感の涵養」「アセスと学級アンケートによる生徒支援」 ・SSR「ほっとルーム」の活用 「相談する力」の育成 「自分の強みを知り生かす力」の育成 <p>②学校行事、生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有</p> <p>・生徒が主体となる自治的活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「リーダーを中心とした集団づくりとフォローの育成」 「生徒の笑顔、元気を引き出す仕掛け」 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にしたい取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」 | <p>①生徒アンケート「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価</p> | 90% | 88% | 93% | 96% | B | <p>○安心・安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実</p> <p>「主体的な学び」の実現に向けて必要不可欠となる、生徒一人一人が安心・安全に過ごすことができる居場所づくりに向けて学校全体で取り組むことができた。日々の授業をはじめ、2学期は「鶴羽ヶ丘音楽祭」などの教育活動において、生徒に寄り添い共感的・受容的な人間関係づくりを行うことで「お互いの個性を認め合える集団の実現」に向けた風土を醸成することができた。鶴羽ヶ丘音楽祭実施後の生徒アンケートでは、「鶴羽ヶ丘音楽祭は充実していた」というアンケート項目では96.5%、「鶴羽ヶ丘音楽祭は楽しかった」という項目では97.8%という高い肯定的評価の割合があった。</p> <p>（1学期比+5%）であった。学級アンケートをもとに話し合い活動をする取組を学校全体で行っていることから、教員・生徒ともに共通意識のもと、取組ができたことが成果に繋がっていると考えられる。引き続き、生徒の様子はもちろん、アンケートの個別の結果にも目を向け、子供達の心の声や思いを汲み取り、学級経営に反映させていく営みを組織的に進めていく必要がある。また新年始めの校内研修では、校長より「教師の心構え」についての講話があった。より信頼される学校づくりに向け、教師としての「使命感」や「専門性」についての重要性について学校全体で考え、教師としての「心構え」を大切にしていけることが、生徒の安心・安全な居場所となる学校づくりに向けた第1歩だと考えている。</p> | | <p>○今年度の評価時にも書かせていただいた、「ええじゃん」や「体育大会」など、子どもたちの自主性や行動力、団結力が、「鶴羽ヶ丘音楽祭」のなかでも、随所に見られることができ、高西の子どもたちの生き生きとした姿にとても心を動かされました。またクラスごとの個性もしっかりとあり、担任の先生の色が出ていたようにも思います。ひるがえせば、担任の先生次第で、子どもたちは何色にでも輝く、またくすぶることもある、と言えるのかもしれません。高西の子どもたちがこのまま素直に育ってほしいと保護者として思います。</p> |
| | | <p>②各行事への生徒満足度（肯定的回答）</p> | 90% | 98% | 97% | 100% | A | <p>○SSR「ほっとルーム」の活用による個に応じたきめ細やかな対応</p> <p>一昨年度より開設した「ほっとルーム」では、1学期に引き続き、教室に入ることや学校に行くことが難しい生徒など、ほっとルーム担当を中心に組織的にそれぞれの困り感や不安感に寄り添いながら、支援することができた。ほっとルームでの生活では本人の意思を尊重し、苦手なことに上手に付き合うことで、生徒一人一人と向き合いながら考えることができるよう接している。今後もほっとルーム担当を中心として、学校全体として学校に来てくいた生徒へアプローチしていく。</p> | | <p>○SSR「ほっとルーム」について</p> <p>1度、会を欠席してしまっているため、失念しているかもしれませんが、SSR「ほっとルーム」の利用状況は是非教えていただきたく思っています。また他校とのSSRについての情報交換や勉強会を開催していたりするが、また教えてください。している場合は頻度、内容を教えてください。</p> |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--|-----|-------|-------|------|---|---|--|---|
| お互いの個性を認め合える集団の実現 | <p>②学校行事、生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有</p> <p>・生徒が主体となる自治的活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「リーダーを中心とした集団づくりとフォローの育成」 「生徒の笑顔、元気を引き出す仕掛け」 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にしたい取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」 | <p>①信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供に対する教育的愛情と教育に対する使命感をもち、専門性を発揮しながら組織の一員として学校教育目標達成のための取組 | 88% | 89.3% | 89.3% | 100% | A | <p>○安心・安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実</p> <p>「主体的な学び」の実現に向けて必要不可欠となる、生徒一人一人が安心・安全に過ごすことができる居場所づくりに向けて学校全体で取り組むことができた。日々の授業をはじめ、2学期は「鶴羽ヶ丘音楽祭」などの教育活動において、生徒に寄り添い共感的・受容的な人間関係づくりを行うことで「お互いの個性を認め合える集団の実現」に向けた風土を醸成することができた。鶴羽ヶ丘音楽祭実施後の生徒アンケートでは、「鶴羽ヶ丘音楽祭は充実していた」というアンケート項目では96.5%、「鶴羽ヶ丘音楽祭は楽しかった」という項目では97.8%という高い肯定的評価の割合があった。</p> <p>（1学期比+5%）であった。学級アンケートをもとに話し合い活動をする取組を学校全体で行っていることから、教員・生徒ともに共通意識のもと、取組ができたことが成果に繋がっていると考えられる。引き続き、生徒の様子はもちろん、アンケートの個別の結果にも目を向け、子供達の心の声や思いを汲み取り、学級経営に反映させていく営みを組織的に進めていく必要がある。また新年始めの校内研修では、校長より「教師の心構え」についての講話があった。より信頼される学校づくりに向け、教師としての「使命感」や「専門性」についての重要性について学校全体で考え、教師としての「心構え」を大切にしていけることが、生徒の安心・安全な居場所となる学校づくりに向けた第1歩だと考えている。</p> | | <p>○今年度の評価時にも書かせていただいた、「ええじゃん」や「体育大会」など、子どもたちの自主性や行動力、団結力が、「鶴羽ヶ丘音楽祭」のなかでも、随所に見られることができ、高西の子どもたちの生き生きとした姿にとても心を動かされました。またクラスごとの個性もしっかりとあり、担任の先生の色が出ていたようにも思います。ひるがえせば、担任の先生次第で、子どもたちは何色にでも輝く、またくすぶることもある、と言えるのかもしれません。高西の子どもたちがこのまま素直に育ってほしいと保護者として思います。</p> |
| | | <p>②各行事への生徒満足度（肯定的回答）</p> | 90% | 98% | 97% | 100% | A | <p>○SSR「ほっとルーム」の活用による個に応じたきめ細やかな対応</p> <p>一昨年度より開設した「ほっとルーム」では、1学期に引き続き、教室に入ることや学校に行くことが難しい生徒など、ほっとルーム担当を中心に組織的にそれぞれの困り感や不安感に寄り添いながら、支援することができた。ほっとルームでの生活では本人の意思を尊重し、苦手なことに上手に付き合うことで、生徒一人一人と向き合いながら考えることができるよう接している。今後もほっとルーム担当を中心として、学校全体として学校に来てくいた生徒へアプローチしていく。</p> | | <p>○SSR「ほっとルーム」について</p> <p>1度、会を欠席してしまっているため、失念しているかもしれませんが、SSR「ほっとルーム」の利用状況は是非教えていただきたく思っています。また他校とのSSRについての情報交換や勉強会を開催していたりするが、また教えてください。している場合は頻度、内容を教えてください。</p> |

| | | | | | | | | | | |
|------------|--|---|-----|-------|-------|------|---|--|--|---|
| 信頼される学校づくり | <p>主体的な学びとお互いの個性を認め合う集団の実現</p> <p>①信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供に対する教育的愛情と教育に対する使命感をもち、専門性を発揮しながら組織の一員として学校教育目標達成のための取組 <p>②学校全体として教育の質を高めるワークスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しとスリム化による時間捻出による授業づくりの充実と時間の向上 <p>③個人として教育の質を高めるワークスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教員のライフステージやライフスタイルにあった働き方ができるタイムマネジメントによる見直しをもった計画的な職務の遂行とワークインライフの視点にたった豊かな生活の実現 | <p>『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」と回答している教職員の割合（23/26人）→（25/28人）</p> | 88% | 89.3% | 89.3% | 100% | A | <p>・目標数値は達成しているが、3名が頼みやすい雰囲気ではないと答えている。一人で抱え込まないよう、主任・主事を中心に声掛けを今後も続けていく。達成感を感じることができるような取組につなげていく。</p> | | <p>○前回と同数の3名という数字が管理職である先生たちには重くのしかかっているかもしれませんが、「課題の説明」に記して下さったことを実際に積み重ねていくことが大切なのではないかと思います。様々な個性があり、大変かもしれませんが、先生方が向く方向が一致していれば、子どもたちにも良い影響がでると思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> |
| | | <p>『学校の働き方アンケート』において、「日々の業務の中で充実感を得られている」と回答している教職員の割合</p> | 88% | 78.6% | 82.1% | 89% | B | <p>・時間割担当が授業の時間管理を早目に示すことで、授業準備など計画的に取り組むことのできる環境づくりができている。また、5校時授業日を設定し、教材研究等の時間確保もできている。</p> <p>・今取り組んでいることが生徒の成長につながっているという実感を感じることができるよう、日々の生徒の姿について教職員同士での交流を引き続き行っていく。</p> <p>・使命感と専門性についての研修を行い、教育の質を高めるワークスタイルについての意識を高めた。</p> | | <p>○一人でも抱え込まないように、進捗状況の把握や職員室での様子をしっかりと見ていく。また、引き続き主任・主事を中心に声掛けを行っていき、相談しやすい人間関係づくりやチームづくりにつなげていき、信頼関係を築いていく。</p> |